

プログラミング演習 説明資料

版数	発行日	改定内容
1.0	2022/04/01	初版発行

目次

1.	はじめに	2
2.	実施の目的	2
3.	演習問題の概要	2
4.	演習問題の実施方法	2
5.	実施後のチェックポイント	3
6.	完成しなかった受講生のフォローアップ方法	3

1. はじめに

この資料にはプログラミング演習での運用において、実施時間、チェックポイント及びフォローアップの方法が記載されています。

2. 実施の目的

特定の演習問題を制限時間内に解いてもらい、「学習項目の講義内容の定着」と「受講生の習熟度の確認」を行うことが目的です。

3. 演習問題の概要

各演習問題の概要や制限時間は「プログラミング演習_演習問題概要」を参照してください。

4. 演習問題の実施方法

プログラミング演習は以下の方法で実施してください。

1. 学習項目に対応する問題をサポーターが選ぶ。
2. 受講生に制限時間内に解くように指示を出す。(冒頭の 10~20 分はフローチャートを書く時間としてください。ただし、時間が十分に取れない場合は省略してください。研修中にフローチャートを扱っていない場合は、単にアルゴリズムを組み立てる時間としてください)
3. 実施後に「実施後のチェックポイント」をチェックする。
4. 完成した受講生の中から 1 名を指定、または挙手制で選ぶ。受講生にプログラムの説明を口頭で行ってもらおう。(オンラインであれば画面共有、オフラインであればプロジェクターに映しながら説明を行ってもらおう)
この際に「プログラミング演習_演習問題概要」の「解説のポイント」で漏れがある場合には別途サポーターから解説を行う。

※実施中の注意点

- ・ 受講生からの質問には直接答えを伝えないようにしてください。「講義資料の何ページを確認してみてください」というようにヒントを提示することは可とします。

5. 実施後のチェックポイント

演習問題実施後には以下の点について、受講生と振り返るようにしてください。

- ・ 最後まで完成できたかどうか
- ・ 実装中に迷った点や手が止まった点はどこか
- ・ 実装中に不明点は質問できたかどうか
- ・ 実装時に自分だけではできなかった点はどこか
- ・ 完成したシステムにバグがないかどうか

6. 完成しなかった受講生のフォローアップ方法

制限時間内に演習問題を解き切れなかった受講生については、練習問題の時間や時間外フォローアップの時間を使って、以下の方法を例にフォローを行ってください。

なお、フォローを行う際には最初に、受講生に解き切れなかった原因をヒアリングし、状況に応じてフォローの内容を変更してください。

状況	フォローアップ方法
制限時間内に演習問題を解き切れなかった 受講生が 少ない 場合	アルゴリズムが苦手であれば、アルゴリズムを詳しく解説する。コーディングが苦手であれば、一緒にソースコードを書く。
制限時間内に演習問題を解き切れなかった 受講生が 多い 場合	ヒアリングを行い、解説するポイントを絞る。 アルゴリズムが苦手な受講生が多い場合は問題のアルゴリズムの説明を行う。コーディングが苦手な受講生が多い場合は受講生と一緒にコーディングを行う。
解説を行える 時間がない 場合	使用しているテキスト内で演習問題のポイントとなる単元や復習ポイントを受講生に周知する。